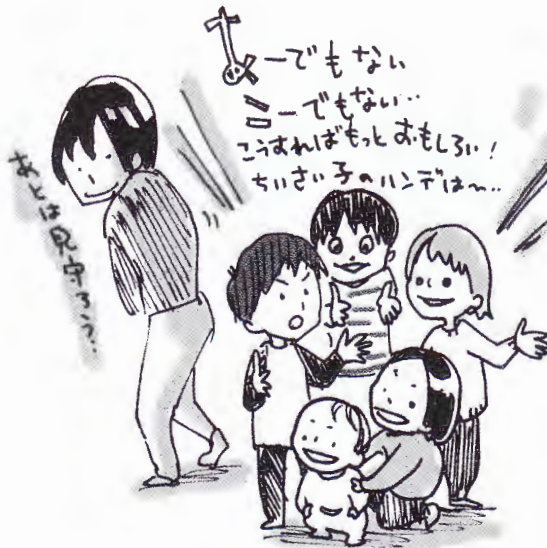




いい遊びのネタ、
ありますよ～!!

遊びの タネ・ネタ帳

～遊ぶ・つなぐ・工夫する・遊びサポーターの巻～





近年、子どもは放課後や土日に、塾・習い事、スポーツクラブなどで忙しく、時間に追われた生活をしています。空いている時間は、携帯ゲームやスマホなど、個人で楽しむ遊びを行う子どもが増えています。また、公園の遊具が減り、球技禁止という看板も目立ちます。その結果、公園に行っても誰もいないので、異年齢の集団で遊ぶことが非常に少なくなってきています。まして、自然の中で遊ぶ姿は見られなくなりました。

集団遊びは異年齢集団の中で五感を鍛え、人との関わり方など色々な経験ができ、体力も自然とつきます。昔は当たり前でしたが、集団で遊ぶ仲間・空間・時間(＝三間(さんま)と読みます。))を大人が用意する必要のある社会になってしまいました。「当たり前が当たり前ではなくなっている社会」なのです。

「みんなで遊ぶ」をテーマに、集団遊びを通して、地域の子もたちが異年齢集団での経験をたくさん積み、成長していけるように、大人は子どもたちの「遊びサポーター」になり、昔から行われている外遊び(中遊び)や新しい外遊び(中遊び)を『遊びのタネ・ネタ』として地域の子もたちに紹介していきましょう。

『遊びのタネ・ネタ』を使って、地域の子もたちと遊ぶ際に、もし地域の大人も巻き込んだイベントとすることができれば、地域の人たちが一緒に楽しむことで、顔の見える関係づくりができ、地域を活性化する一助となることでしょう。地域を元気にするためのツールとして、ぜひ『遊びのタネ・ネタ』を使ってください。

掲載されている『遊びのタネ・ネタ』はきっかけにすぎません。今回の冊子を読まれた遊びサポーターが、子どもたちの三間(＝仲間・空間・時間)を確保していただくことがスタートとなります。まずは、遊びサポーターの方から『遊びのタネ・ネタ』を仕掛けて下さい。その後、子どもの考えに耳を傾け、子どもの自由な発想を保証することで、子どもの「やってみたい」「遊んでみたい」という気持ちを膨らませて下さい。子どもの意見を取り入れ、『遊びのタネ・ネタ』を進化させ、最終的には「子どもたちだけで遊んでいる風景」を地域で見ることができれば、子どもの健やかな育ちに繋がるひとつの方法となるでしょう。

今回作成した冊子が地域で活動する多くの青少年支援・指導者の方や青少年施設職員、施設利用者に活用され、神奈川県全体に「集団遊び」の新たな展開を取り入れるきっかけとなれば幸いです。

平成25年度 神奈川県青少年指導者養成協議会専門部会委員一同

	ページ
○はじめに ～遊びサポーターになろう～	2

〈目次〉

○冊子の使い方について ～想いをカタチに～	5
-----------------------	---

【DVD映像】

○巻の壱 『遊びのタネ・ネタ』屋外編

1 ろくムシ	7	○
2 三角キックベース	9	
3 漂着物競争	11	
4 名前呼び	13	○
5 遊具で鬼ごっこ	14	
6 ネイチャー宝探し	15	
7 ネイチャー宝探し パート②	17	
8 お金で買えないものを探そう	19	
9 激突泥団子試合	21	
10 KENKENバトルロイヤル	23	○
11 田んぼの「田」	25	○
12 どんぐりで遊ぼう	27	
13 大きな声を出す	28	

○巻の弐 『遊びのタネ・ネタ』屋外・屋内編

1 天大中小	29	○
2 宝取り	31	○
3 マンモスウィリー鬼ごっこ	33	○
4 人取り	34	○
5 お助けじゃんけん	35	○
6 えぐざいるじゃんけん	37	○
7 リズム遊び	38	
8 ケンケンすりかえ	39	
9 王族チェック鬼ごっこ	41	○

○巻の参 『遊びのタネ・ネタ』 屋内編

【DVD映像】

1	バスタオルバレ	43	
2	ぐーちょきぱ	45	
3	とりかえバレ	46	○
4	新聞紙 i n	47	○
5	新聞紙キャッチボール	48	○
6	新聞紙いないいないパーっ	49	○
7	新聞大相撲	50	
8	新聞紙じゃんけん	51	

○巻の四 『遊びのタネ・ネタ』 机上編

1	ジジババ抜き	52
2	ラスいちドン	53
3	カードタワー	57
4	カードマウンテン	59
5	パニックパズル	61
6	やんちゃカルタ	63
7	新・神経衰弱	65
8	ドキドキナンバー	67
9	コンバインナンバー	69
10	新説大富豪	71

○参考文献・資料	75
○こんな遊びサポーターはス・テ・キ	76
○DVD映像について	77
○専門部会作成者・協力者一覧	78

※DVD映像のある『遊びのタネ・ネタ』にはタイトルの横に



の

マークがあります。

冊子の使い方について ～想いをカタチに～

「はじめに」でもお伝えしたとおり、今回の冊子は、実際に子どもに関わっている、あるいはこれから関わろうとしていて、遊びサポーターを目指している人達を対象に作成したものです。「遊び」は子どもの「やってみたい」から始まります。「遊びの主役は子どもたちである」という意識で、この冊子をお使い下さい。最終的には「地域の子どもたちが自由に楽しく遊んでいる」ことをめざします。今回の冊子は、それに向けてのきっかけ作りに使ってほしいものです。

皆さんの過去の知識や経験を元に、子どもたちの自由な発想を引き出し、組み合わせることで、地域の子どもも大人も大いに笑い、楽しみながら遊んでみてください。

本冊子は巻の巻に屋外編、巻の巻に屋外・屋内どちらでもできる編、巻の巻に屋内編、巻の巻に机上編の『遊びのタネ・ネタ』を掲載しています。なお、『遊びのタネ・ネタ』をさらに分かりやすくするために、別添でDVD映像も用意しました。併せてご覧いただき、地域を元気にするツールとして使っていただきたいと思います。

※『遊びのタネ・ネタ』＝集団遊びの方法

※遊びサポーター＝『遊びのタネ・ネタ』を子どもたちに伝え、子どもたちが自分たちで遊べるようにサポートする人（中高生のジュニア・リーダーや地域の大人、青少年支援・指導者）

『冊子の内容（＝遊びのタネ・ネタ）について』

1 対象及び人数について

『遊びのタネ・ネタ』を楽しむ対象年代や人数が書かれていますが、この年代しかできない、この人数でしかできないというものではありません。子どもたちは、自分たちで工夫する力を持っています。子どもたちを主体的に活動させ見守ることが大切です。

2 必要なものについて

ここにはそれぞれの『遊びのタネ・ネタ』で最低限、必要な物が書かれています。準備する道具が書かれていることもあるし、遊ぶ人の心構えのようなことも書かれています。「これがあると便利だな！」「これがあると面白いかもしれない」など思いついたことがあれば、どんどんアレンジを加えて下さい。

3 基本ルールについて

『遊びのタネ・ネタ』を楽しむ上での約束事が書かれています。まずは、基本ルールでやってみましょう。基本があるからこそ、発展があります。

4 ルールのバリエーションについて

ルールを加え、さらに遊びを楽しむことや、異年齢集団や遊び慣れていない人がいる時は、ルールを易しくしたり、減らすなどして、みんなで楽しむようにしていくことも大切なことです。ここでは、ルールの追加や変化を書いています。

5 子どもからの遊びの提案について

この冊子は「書き込み用」となっています。最も大切にしているのは、「子どもの声に耳を傾ける」ことです。創造性豊かな子どもの意見に耳を傾け、忘れないように5に記入し、新しい『遊びのタネ・ネタ』を地域でたくさん作ってほしいものです。

以下、冊子の使い方の1例となります。

ステップ1 「三さんま間」と呼ばれている「空間（場所）・時間・仲間（子ども）」の確保、安全面の確認、場を設定します。

↓

ステップ2 本冊子に基づき、集団遊びをやってみましょう。

↓

ステップ3 子どもの意見に耳を傾け、アレンジ方法を考えましょう。

↓

ステップ4 子どもの意見を活かし、子どもも大人も一緒に楽しく遊びましょう
○上手いかわなくても、子どもたちのそれまでの過程を認めましょう。
○認めた上で、その場でルール変更、アレンジをしてみましょう。

↓

ステップ5 『遊びのタネ・ネタ』シートに記録しておく役立ちます。

☆子ども達が自由に遊ぶ姿が見られるようになるといいですね！！☆